

相馬通信

「齋藤研^(※1)」展

新地町町政50周年記念の行事として、「我が愛する町 齋藤研の新地」展が、新地駅前前の文化交流センターで、去る8月1日から10日間行われた。

新型コロナの蔓延拡大で不安を抱える中ではあったが、県内遠方からの来場者もかなりいた。



齋藤研画伯の遺した大小82点に及ぶ作品を通して齋藤研氏の描いた世界観に触れ、観た人の心に潤いを与えてくれた。

大きな作品の前で、ずーっと座り、眺め続けている方々も少なからず見かけた。



憧れの先輩・研ちゃん

倉本信之^(※2)

(齋藤研展 パンフレットより)

おんぼろ校舎のガラーンとした美術室。そこに、絵の具の付いたズボンをはき、物腰柔らかく迎え入れてくれたのが研ちゃんである。彫刻家佐藤玄々を筆頭に伝統ある相馬高校美術部。とはいっても、部員はほんの数人。かっこよかった先輩に憧れたものです。おもい石膏像を大風呂敷に包み担いで列車で新地の自宅まで押しかけたことなど記憶に残る。

上京してからも故郷をこよなく愛していた研ちゃん、新地に

アトリエを構えるや、中央で活躍する友人たちと共に新地ビエンナーレなど次々立ち上げ、地元の皆さんをもその仲間として招いてくださり、アートに縁遠い田舎にたくさんの人・文化を運び、多くの話題を提供していただいた。

日々の活動(あそび)も制作も独歩にエネルギー全開で生き切った姿。それは、何とシャイでクールでカッコよくて、眩しい。それを遠くに近くに半世紀以上感じてきたのでした。お導きに感謝!! これからもずっと憧れの先輩で……。

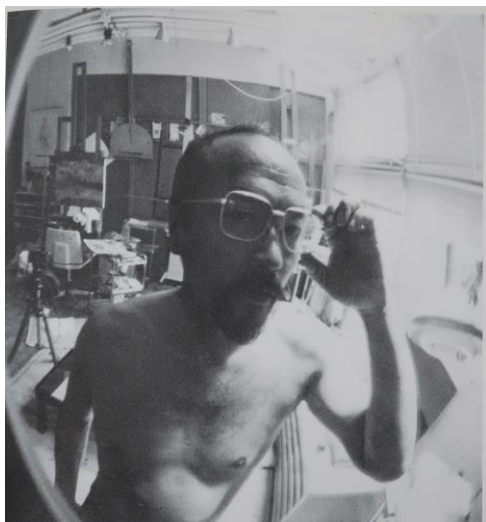
『絵描きでよかった。』

僕は自分の好きなことを、好きなようにやっているだけだ』

創立 90 周年[※]記念誌『紅の旗』 「今こそ伝えたい、希望と勇気を」 (※1988 年)

==OBから若駒への熱きメッセージ==

齋藤 研 (高 10 回) 画家 独立美術協会会員



先日、なんかの集りでとなり合わせたK君が「ケンさん」と、僕にも、自分にともつかぬ耳うちをした。

「えかきでよかったネ」というのだ。

画だんのスーパースターである彼がそういいたいくなる気持ちはわかる。しかし、ごく平均的な絵描きである僕には日頃、それだからといって感心するようなことなんてなかなかない。押されればコケそうだし、ふけばとびそうである。少しオーバーにいえば、今日のメシは食べたけれど、あすのことはわからないのだ。

相高生に^{わかいひと}“熱いメッセージを”ときいて、そんなカッコイイことはできないけれど、僕たちの頃の相高のことで、今の相高生につたえたいことはあるなと思った。

僕は、自分の好きなことを好きなようにやっているだけなのだが、僕がかよっていた頃の相馬高等学校にも、そんなことのゆるされる空気があった。

国語の新妻先生^{※3}、一年のときの担任の阿部先生^{※4}、三年の時は佐藤たかとし^{※5}先生、ベテランで、それぞれに、確かなやさしさがあった。

30 年前の先生方からの贈物は、けっして色あせることなく、エネルギーとなって、僕たちの“現在”をささえつづけている。あたりまえのことだし、あまりにも単純であるけれども大事なこのことを、現在の相高生に直接つたえることができることをとてもうれしく思う。

そして相高卒業生の中のかわりだねとして、このチャンスは与えられたのであるから、絵描きでよかったなと思う。

(※1) 高普 10 回 昭和 33 (1958) 年卒。1939 年～2020 年。東京生まれ。1943 年、戦禍を避け福田村 (現新地町) に疎開。

1958 年東京藝術大学油画科入学。1964 年東京藝術大学専攻科終了

画家。女子美大名誉教授。新地にもアトリエを構えていた。

(※2) 高普 11 回 昭和 34 (1959) 年卒 飯豊出身

(※3) 新妻三男 (百年史の資料編による類推) 中 20 回 大正 11 (1922) 年卒、中村出身 相馬高校勤務：昭和 25～36 年

(※4) 阿部勝郎 (百年史の資料編による類推) 相馬高校勤務：昭和 16～20 年 & 昭和 25～54 年

(※5) 佐藤高俊 (旧姓 富田) 中 27 回 昭和 4 (1929) 年卒、石神出身

相馬高校勤務：昭和 30～43 年、馬城かわら版第 27 号に寄宿舎生活に掲載